

第10回 経営協議会 議事要録

日 時 平成17年5月26日(木) 15時00分～16時25分
場 所 事務局第1会議室
出席者 平山郁夫学長、太田和良幸理事、福原義春理事、六角鬼丈美術学部長、
川井 學音楽学部長、石田義雄委員、海老澤 敏委員、高階秀爾委員、
玉井賢二委員、中西 満会計課長
監事：東條伸一郎監事、竹内雄也監事
欠席者 佐々木正峰委員、根本二郎委員

議事に先立ち、議長から、平成17年4月1日付けの委員の交代及び陪席者について紹介があった。

委員：中西 満会計課長(園田秋雄会計課長の後任)

陪席：成塚静男学外連携・研究協力課長(新設)

議題

1. 平成16年度決算概要について

議長から標記のことについて提案があり、会計課長から資料に基づいて説明及び太田和理事から、純利益は、非常勤講師予算の見直し、省エネ・ペーパーレス等の一般管理費の節約によるものであり、支出の増は超過勤務手当の増によるものである旨補足説明の後、審議の結果、原案どおり確認された。

2. 平成18年度概算要求事項について

議長から標記のことについて提案があり、会計課長から資料に基づいて説明及び太田和理事から、学内においてヒアリングの上、文部科学省へ要求する事項を決定する旨補足説明の後、審議の結果、原案どおり確認された。

報告及び連絡事項

1. 藝大ルネッサンス及び藝大フレンズについて

標記のことについて、太田和理事から資料に基づき報告があった。

2. 平成16年度寄附金受入状況(平成17年1月～3月受入承認分)について

標記のことについて、会計課長から資料に基づき報告があった。

3. 平成17年度外国人留学生懇談会の実施について

標記のことについて、学生課長から議題表のとおり連絡があった。

4. 附属図書館講演会について

標記のことについて、附属図書館事務長から資料のとおり連絡があった。

5. 「厳島神社国宝展」入館者数について

標記のことについて、大学美術館事務長から資料に基づき報告があった。

6. 英国王立園芸協会創立200周年記念「500年の大系：植物画世界の至宝展」開会式について

標記のことについて、大学美術館事務長から議題表及び資料に基づき連絡があった。

7. その他

芸大の運営等について、学外委員を中心に意見交換を行い、下記の意見が出された。
(主な意見)

- ・法人化のメリットを生かし、芸大がさらに発展をしていくため、外部委員の視点から方策・意見を求められているが、そのためには、芸大の実情、過去からの経緯等を踏まえて考える必要があり、教員等とフリーディスカッションできる機会がほしい。
- ・自由な発想の元に大学改革を行うには、現状に対して不自由感や問題意識を持っていないと発想も浮かばない。芸大は、芸術教育であり、他大学と同様の制度ではより良い教育研究を行う上で問題も多く、芸大に合った制度構築が必要である。
- ・法人化により自由になったとはいえ、報告制度、評価制度等でこれまで以上に縛りが多くなっている。今後国立大学法人がどうあるべきか自ら考え、改革していけるようにをしていかなければならない。
- ・美術館は先行して独立行政法人化したがる、同様に縛りが多い。もっと自由な展開ができなければ、より良い発展はむずかしい。
- ・受託研究の新たな制度を構築し、資金確保等を容易にし、自前で新たな制度・方策を実施し教育研究に還元していけるよう検討する必要がある。
- ・法人化によるメリットもある。例えば大学の意志により、十分な予算要求ができなくても、映像研究科を立ち上げることができた。また、兼業制度も規制を緩和し、種々の人事制度も芸大に合った制度として構築した。
- ・芸大は他の芸術大学の中心として日本の芸術教育を担っている。一大学だけの問題としてではなく、日本の芸術教育をどうするかという視点で考えていく必要がある。